

NBUチャレンジプログラム(正課外)

人間力育成センターは、学生が様々なプロジェクトを企画・実行・検証することで、主体的に地域に参画出来るように正課外活動を推進しています。学習する場は、教室や研究棟の中だけではありません。「**大分全域をキャンパスに**」を合言葉に、地域に繰り出し、様々な体験を通して、社会人として必要なモチベーションと人間力を磨いていきます。インターネットだけでは伝わらない現場の空気に触れることで、「何か」を感じ、「自分に出来ること」を考え、時には、「どうにもできないこと」に悩みながら、成長していくのです。

学生たちは人間力育成センターに自由に集まり、地域の課題解決のためにチームで何が出来るのか、何度も話し合い、議論を重ねながら、地域での活動を展開しています。そして、地域の方々と共に活動を進めることで、若者が社会に必要とされている実感を得る事ができ、社会人としての自覚が芽生えてくるのだと思います。

例えば、保護者の皆さんの若い頃には、ボランティア活動は「無償で働く慈善活動・奉仕活動」という意味で広まっていたように思いますが、昨今、学生ボランティアは、地域に希望を与えるだけでなく、学生自身も、学習への自発性に留まらず、様々な人との出会いを通じて、将来の職業へ進む姿勢を形成することに役立っているとボランティア学習に魅力を感じている学生も増えてきたように感じています。

授業以外の空いた時間を有効に使い、社会で役立つ人間力を磨く体験学習を積み重ねて成長して欲しいと願っています。NBUの特色である人間力教育の活動の一部を紹介します。

新入生歓迎会

新入生の歓迎会と、NBU 開学記念日のお祝いを兼ねたイベントを学生達が企画・運営。バーベキューやプロジェクト活動の紹介、レクリエーションを交えながら、学部・学科・学年を超えた交流が始まります。



夏の自然体験活動

夏休みを利用して、大分川の源流を探したり、自然と触れ合うキャンプを行います。プロジェクトの仲間と交流してチームワーク力を高めたり、地域の方や自然からたくさんの事を学びます。



地域伝統行事への参画～地域文化の存続と継承を考える～

日本の伝統的文化として各地域に存在するお祭り。近年加速していく少子高齢化や若者の都市部への流出によって、多くの地域で祭りの存続が危ぶまれています。そのような中、学生たちは運営スタッフの一員として祭りに参画し、地域文化を存続していくと同時に、次世代へと継承していくことを目的とした活動に取り組んでいます。祭りのほとんどが地域の方々の手作りで開催されており、学生にとって熱意を持って取り組まれている方々との協働作業を通じて、地域を愛する気持ちが芽生え、祭りの意義を深く考える機会となっています。

(鶴崎二十三夜祭)



(豊後大野川フェスティバル)



(明礬温泉お地藏様のおせったい)



災害復旧ボランティア

集中豪雨の被害にあった大分県日田市や山口県萩市へ学生達がボランティアに出動しました。作業内容としては住居に入り込んだ泥かきや使用できなくなった家具の運び出しを中心に取り組みました。被害に見舞われながらも沢山の方々が協力し、前向きに復興に向かっていく姿を見て、人々が支えあうことの大切さを実感しました。誰かからの指示を待つのではなく、自分でできることを考え、瞬時に行動するという心と身体が一体となった貴重な体験をさせていただきました。

(大分県日田市/平成24年、29年)



(山口県萩市/平成25年)



(大分県南地域/平成29年)



自然環境保護活動

豊かな国の森づくり大会

大分県主催の豊かな国の森づくり大会に参加しました。今年は、大会の企画運営を任せられ責任重大。会場の整備段階から行政の方と一緒にを行いました。自分達が整備した場所で大会が執り行われ、喜びが増したようです。



トヨタソーシャルフェス

トヨタソーシャルフェスという全国規模の環境イベントに、地元の新聞社と NBU が共同で主催。海岸の清掃活動と、うみがめの産卵の為の防砂垣を、荒れた山で伐採した竹を用いて作成。地域の方を巻きこんでの取り組みとなりました。



田植え・農業体験

小学生が、田植えや農業を体験するお手伝い。子ども達と接し、自分達もこうして育てて貰ったのだとふり振り返り、家族に感謝の気持ちを湧いてきたようでした。



環境教室

地域の子供達を対象に、環境教室を開催。大学生が地域の方から教わった「森の役割」や「竹炭の作り方」などを紙芝居やゲームで分かりやすく伝え、子ども達に還元していきました。



関崎シーサイドウォーキング

海岸に近い佐賀関地区のイベントを企画。当日の誘導・案内などに取り組みました。海岸線沿いの道路を歩き、大分の魅力を再発見。日頃から、様々な世代が集うこの様な地域活動を積み重ねる事が、防犯意識を高めます。



お仕事発見ランド

NBUならではの職業体験。学園祭や地域の公民館等で子ども達へ向けて行いました。学生達は、大学で学んでいる事を子ども達に説明しました。毎回感じる事は、いかに分かりやすく伝えることが難しいかという事です。



サンタ!サンタ!サンタ!

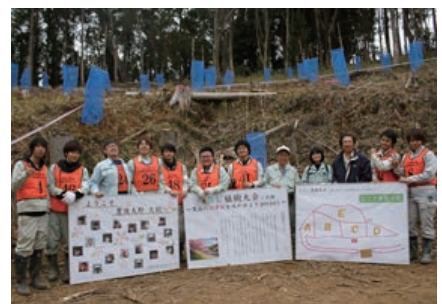
大分市中心市街地活性化を目指し、学生が企画運営するイベント。大学生と地域の小学生や園児を含む約200名がサンタの衣装でパレードし、街中に賑わいを見せました。集客を考え、大勢を動かすって本当に大変です。



地域すべてがキャンパス～桜の植樹で未来を共有～

豊後大野市犬飼町大寒地区。目の前に広がる広大な農地を見た学生達の第一印象は“何もない”。そんな地域で、地元の特産品「甘たくん」の栽培をはじめとした農業体験や、河津桜の植樹に取り組んできました。農業体験では、生産者との協働作業を通じて、第一次産業の尊さを再認識する機会になったようです。植樹体験では、下草刈りから測量、配置計画などの作業に関わることで、地域に愛着が生まれたようです。100本の植樹を終え「大寒地区の豊かな資源を活用し地域の方々と様々な事に挑戦していきたい」「この場所で同窓会ができればいいな」と話す学生を見て、初めてこの場所に連れてきた時に彼らが抱いた“何もない”という印象が“何でもある価値ある場所”に変わったことを確信しました。

先輩達の想いを引き継いで、次は河津桜を楽しむための遊歩道作りに取り組む予定です。



若者から発信していく事で社会が変わる

人間力フェス(大分)

人間力育成センター開設10周年イベントとしてスタートした「人間力フェス」は、県内各地で様々な活動に取り組む学生による報告会のごとで、地域の方々がたくさん集まる学園祭で開催しました。それぞれのプロジェクト活動内容や、課題についてブース形式で発表しました。8つのプロジェクトがブースを出展し、2日間で延べ134名の方々に活動報告を行いました。参加した地域の方からは「地域で学んだ学生から直接話を聞くことができよかった」「住民としても若い人の意見を聞いて自分達の世代もやるべきことが見えてきた」「大学生が主体的に地域に参画することは、受け入れる地域にとっても、大学生にとっても有意義だと感じた」などの感想を聞くことが出来ました。学生にとっては、これまでの活動を振り返り、成果や課題、今後の展望等について共有する貴重な機会になったようです。本学としても、このような学生の主体的な活動を支援していきます。



学生ボランティアフォーラム(東京)

毎年全国の学生ボランティアが東京の国立青少年教育振興機構に集まり、交流し学び合う機会となっています。学生達を支援する大学や関係機関の担当者等も集まります。本学からは、毎年フォーラムを運営する学生委員が選ばれており、全国から集まった他大学の学生委員と共にフォーラムを企画運営しているのです。

また、フォーラムの中で自分達の活動紹介ブースを出展する学生や、ワークショップに参加している学生もいます。



NBUモンゴルプロジェクト(海外)

海外の学生と文化的な交流をするのは貴重な体験です。さらに発展させたプログラムとして、互いの国で「2週間ずつ寝食を共にする」異文化体験。これまで本を読み、ネットで調べて想像していたこととあまりに現実のギャップが大きく、戸惑いは隠せませんでした。

社会に出れば、自分の考えやこれまでの価値観が一瞬のうちに覆されることも多く、互いを尊重し、折り合いをつけながら、1つの目標に向けて「何か」を創り上げることは、多文化共生社会で生きるためには必要なことで、このような若者の交流は、社会にとって大きな収穫です。

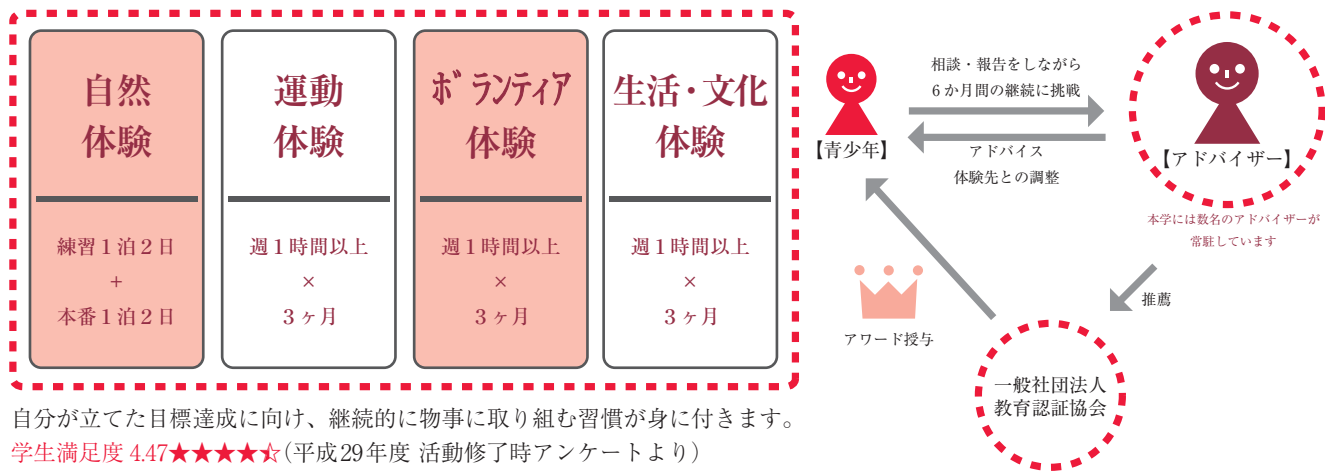


青少年体験活動アワード

青少年体験活動アワードとは、14歳から25歳の青少年が様々な体験活動を行う事を重要視し、その体験活動を奨励することを目的として整備された制度。「**自然体験**」「**運動体験**」「**ボランティア体験**」「**生活・文化体験**」の4領域の体験活動を一定期間継続した実績に応じて、修了証(アワード)が一般社団法人教育認証協会から授与されます。

NBUは、地域社会に主体的に参画し、多様なヒトやモノと関わり合う直接体験(体験活動)は、多くの教育的効果をもたらす貴重な機会になると考え、地域自治組織やNPO、行政機関と連携した、様々な分野の地域貢献活動やボランティア活動等を推進しています。現在では、多くの学生が**大分県内の豊かな資源を活用した様々な活動に取り組んでいる**ことから、より充実させるために「**おおいた版チャレンジアワード**」をつくりました。正課外活動のため、単位はありませんが、学内のアドバイザーが個別に助言し、アワードの取得に向けて挑戦する仕組みです。

<仕組み図> NBUでは様々な活動がアワード授与に繋がるようなシステムをつくっている



おおいた版チャレンジアワード挑戦例

<p>自然体験</p> <p>例・豊後大野市のジオパークを 自転車で巡る旅 ・登山</p>	<p>運動体験</p> <p>例・筋力アップトレーニング ・ランニング</p>	<p>ボランティア体験</p> <p>例・里山保全活動 ・地域防犯パトロール</p>	<p>生活・文化体験</p> <p>例・SPI勉強 ・資格取得の為の勉強</p>
--	--	---	---

【挑戦者A君】

私にとって、チャレンジアワードは新たな発見と感動が生まれる機会となりました。特に、自然体験活動では、「仏の里」として全国的に知られる国東半島のお寺や史跡を自転車で巡るツアーに挑戦し、実際にその地域の歴史や文化、豊かな自然に触れる事で、大分の新たな魅力を発見することが出来ました。この経験を活かし、今後も様々な事に挑戦していきたいと思えます。

【挑戦者B君】

チャレンジアワードに参加する事で、以前から取り組みたいと考えていた、資格試験や体力トレーニングを始めるきっかけとなりました。活動内容や達成目標は、アドバイザーと相談しながら進めていく事で、自分自身の新しい可能性や、成長すべき点を発見する良い機会になりました。また、ボランティア活動では、地域の方々との共同作業を通じて、新しい価値観に出会うことができました。



Facebook ページでも日々の活動を紹介しています。みなさんの「いいね！」お待ちしております。

NBU 日本文理大学

<https://www.facebook.com/NipponBunriUniversity>



人間力育成センター

<https://www.facebook.com/NBU.npower>

